

Title	共同研究：観世元章の能楽改革（四）
Author(s)	天野，文雄
Citation	演劇学論叢. 2006, 8, p. 158-158
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97506
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

■共同研究

観世元章の能楽改革（四）

今回の報告は中尾薫さんと橋場夕佳さんの二本、今回で完結を予定していた天野の報告「明和改正謡本と現代の能（三）」は、公私多忙で調査時間がとれず、見送らざるをえなかった。というわけで、今回の共同研究は二本の報告にとどまったが、しかし、ここに来て元章の明和の改正についての研究は確実に進み、そう遠くない将来に、その全体の輪郭が明らかになる可能性が出てきている。

たとえば、平成十七年七月の「国文学」には落合博志氏の「観世元章―明和改正謡本の稿本など」が掲載されたが、同稿においては、観世家伝来文書を母体とする観世文庫所蔵資料中の元章関係資料についての概観がなされ、あわせて、同文庫所蔵の明和改正謡本刊行のための多くの稿本の存在を紹介したうえで、同稿本から明和改正謡本にいたる詞章の改訂過程が《井筒》を例に示され、さらに右稿本における数種の改訂案の書き入れのうちの一種が改訂の参画者の一人だった加藤枝直のそれと一致することなどが指摘されている。観世家所蔵の明和の改正関係の資料については、かつては元章の《梅》所演についての田安宗武の所感メモなど断片的な資料しか知られていなかったが、落合氏稿によれば、観世文庫の元章関係資料中には明和の改正にかかわる資料が少なからず存在するようである。同文庫の資料については近世初期以前のものには表章氏による詳

細な調査があるが（「観世」誌連載の「観世宗家所蔵文書目録」、近世以降の膨大な資料についてはほとんど調査がなされていないかった。しかるに、平成十五年からは松岡心平氏と国文学研究資料館による同文庫所蔵資料の組織的な調査が始まり、同調査は平成十八年からは文部科学省の科学研究費の採択をうけ、すでに仮目録が作成され、現在は科学研究費による共同研究メンバーによる解題を付した本目録の作成にむけての作業が始まっている。筆者は過日その共同研究のメンバーの一人として仮目録を披見する機会をえたが、仮目録を一見しただけで、科学研究費による同文庫調査チームの整理が進み、それが研究者に公開されるようになったならば、元章による明和の改正の輪郭が明らかになるだろうことがただちに確信された。

第四回になるこの共同研究も以上のような明和の改正をめぐる最近の動向ともちろん無縁ではない。今回も稿を寄せている中尾薫さんが最近『雲能史研究』一七二号に発表した「明和改正謡本と加藤枝直―謡曲改正草案頃」の再検討から―は、落合氏の論稿が指摘している明和の改正における加藤枝直の関与を論じたもので、明和の改正の実態解明に一歩を進めている。なお、この共同研究参加者のこの一年間の明和の改正についての論考としては、中尾薫さんに「田安宗武と観世元章―『甲子夜話』の記事を中心に―」（『叙説』33、「明和本における「松」と「源氏」」（『東海能楽研究会年報』10）がある。

（天野文雄）